

フィンランド

オウル大学

所属：国際商学部 国際商学科

第1クォーター（9～10月）の履修内容

Internationalization

対象：Bachelor degree students

内容：多国籍企業（Multi-National Enterprises）と企業の海外進出に関する講義。

授業形態：LIVEでのオンライン授業と、その録画（オンデマンド）。一部のセクションでは完全オンデマンド配信。講義終盤では質疑応答の個別セッション。

評価基準：100%最終レポートによる評価。

履修動機：日本企業の海外進出に関心があったから。また、数少ないbachelor courseの授業だったから。

中間感想：出席点を取らないので、先に最終課題を仕上げのための構成をしながら学習した。その中で、教授が配布している資料を閲覧したり授業の録画を見返すなどして、かなり自由気ままに自分のペースで学習を行った。最終課題は海外マーケット市場に進出した企業が成功した要因について分析を行うケーススタディー。わかりやすい例ではフランチャイズ方式で日本に進出したウォルト・ディズニーが挙げられ、他の人とも被らなそうだったのでウォルト・ディズニー及びオリエントランドをケーススタディーの題材に決めた。

Entrepreneurial Leadership

対象：Master degree students

内容：起業に関する基本的な知識の講義と、ビジネス構築の練習、またリーダーシップについて

授業形態：配布されている資料を用いて自主学習。教室に行くと講師はいるが、基本的には質疑応答セッション。

評価基準：100%毎モジュールにおける課題による評価、毎回5点満点×10モジュール。

履修動機：将来起業することに関心があったから。担当講師が実績のある研究者だったから。

中間感想：10モジュールあるうち、3モジュールの課題を仕上げた。いずれも満点の評価をもらうことができた。同時にコメントももらうことができ、その中に“*This is the best of all analyzes.*”とあり、とてもモチベーションになった。進捗状況としてはあと7モジュール残っており若干遅れ気味ではあるが、来月以降で挽回していきたい。

Tandem Japanese

対象：全学部生

内容：起業に関する基本的な知識の講義と、ビジネス構築の練習、また企業におけるリーダーシップについて。

授業形態：ペアワーク、1on1、実施内容はペアによって様々。

評価基準：Brief diaryと最終レポートによる評価、可・否評価。

履修動機：フィンランドの文化に親しみを持ちたかったから。日常生活ができる必要最低限のフィンランド語を習得したかったから。

中間感想：何度かパートナーのRoosaとミーティングをし、お互いの母国のカルチャーの交換や基本的な言語の勉強を行った。Roosaはすでにいくつかの漢字をわかっており、きれいな字を書くためにはどうすればいいかをレクチャーした。また日本語・中国語特有の数助詞についても教えた。自分はというと、まずはフィンランド語の数字をマスターすることから始めた。その後、名詞の文末が変化する特有の文法についても学んだ。